

2023 年度 スポーツ健康科学総合研究所 設立記念シンポジウム
Well-being の実現に向けたスポーツ健康科学
開催報告

【日時】

2023 年 6 月 23 日（金）13：30－16：30

立命館大学 びわこ・くさつキャンパス プリズムホール（対面＋オンラインのハイブリット）

【テーマ】

「Well-being の実現に向けたスポーツ健康科学」

講演①「個人の Well-being 実現に向けて：脳神経科学の観点から」

定藤規弘先生（総合科学技術研究機構 教授／RARA フェロー／大学共同利用機関法人
自然科学研究機構生理学研究所 兼任）

講演②「個人の Well-being 実現に向けて：未来における Well-being の観点から
（メタバース×インターバース）」

持丸正明先生（国立研究開発法人産業技術総合研究所 フェロー（人間拡張研究センター長 兼務）／
RARA フェロー／総合科学技術研究機構 客員教授）

パネルディスカッション「これからの未来像：研究所における 3 つの柱から Well-being を考える」
（パネリスト）

定藤規弘先生

持丸正明先生

岡田志麻先生（スポーツ健康科学総合研究所 副所長、理工学部 ロボティクス学科 教授、
RARA フェロー）

岡田まり先生（産業社会学部 現代社会学科 教授、研究部 副部長）

鈴木華子先生（総合心理学部 准教授、総合心理学部 副学部長）

（モデレーター）

伊坂忠夫所長（スポーツ健康科学総合研究所 所長、立命館大学 副学長）

スポーツ健康科学総合研究所設立記念シンポジウムを開催しました。

2023 年 6 月 23 日（金）立命館大学びわこ・くさつキャンパスにおいて、スポーツ健康科学総合研究所設立記念シンポジウム「Well-being の実現に向けたスポーツ健康科学」を開催しました。

開催当日は現地参加 121 名、オンライン参加約 280 名、合計約 400 名の方々にご参加いただきました。

開会挨拶

立命館大学スポーツ健康科学総合研究所・所長、立命館大学・副学長/伊坂忠夫先生による開会挨拶をおこない、本研究所の紹介、活動概要とシンポジウム趣旨をご紹介しました。また、研究所紹介の中では設立記念に伴い、研究所ロゴの正式発表も行いました。



講演①「個人の Well-being 実現に向けて：脳神経科学の観点から」

総合科学技術研究機構教授の定藤規弘先生により、脳神経科学の観点から今回は Well-being を幸福と表現し、ご講演いただきました。

Well-being は「快適」と「やりがい」に 2 分でき、MRI での撮像による実験結果を含めた内容をわかりやすくご説明をいただき、また、Well-being そのものは学習可能である可能性に関してもお話いただきました。実験結果や検証を含めたアカデミックな内容を丁寧にご説明いただきながら、実際の行動である「やりがい」や「褒め」という言葉にあてはめたお話であったため、研究者であれば他分野の内容、また研究者以外の方にもイメージしやすい内容となり、Well-being を身近なものに考えるきっかけとなりました。

参加者からの感想

「脳の仕組みと感情に興味があったため、新たな知識を勉強できて非常に有意義な講演であった」、「人間の幸せは、内発的動機から起こしたアクションに対する結果、つまり得られた報酬と関係しているという非常に親近感のあるお話であった」、「新たなウェルビーイングの概念整理ができ、有意義な時間だった」など多々ご感想をいただきました。



講演②「個人の Well-being 実現に向けて：未来における Well-being の観点から（メタバース×インターバース）」

国立研究開発法人産業技術総合研究所フェローの持丸正明先生により、未来における Well-being の観点からご講演いただきました。

メタバースについて、ゲームを絡めた運動へのきっかけやヘルスケアサービスの研究、日常歩行の可視化などメタバースを活用した健康へのサポートのお話が印象的でした。多感覚 XR-AI による遠隔リハビリの研究から、実際にウェアとなり社会実装につなげられているご紹介もいただきました。また、ユニバース・メタバースの 2 つの空間の価値を還流させるインターバースについて、コロナ禍で変化したバーチャルエコノミーについて、いかに価値を現実空間に戻せるか、両者を繋ぐことで全体の価値を拡張し人々の健康や Well-being に貢献、活用できるという現代に沿った最新の知見を含めた貴重なお話をいただきました。

参加者からの感想

「今までに無い角度からのお話を聞かせていただいた」、「難しいイメージでしたが、少しずつ具体的に理解できた気がする」、「先生のお話が大変面白く、楽しめた」、「実験室データとフィールドのビッグデータを組み合わせて介入、行動変容を促していくというお話に興味を持った」などたくさんのご感想をいただきました。



パネルディスカッション「これからの未来像：研究所における3つの柱から Well-being を考える」

パネルディスカッションでは、ご講演いただいた定藤規弘先生、持丸正明先生に加え、理工学部教授の岡田志麻先生、産業社会学部教授の岡田まり先生、総合心理学部准教授の鈴木華子先生にご登壇いただき、研究所長の伊坂忠夫先生がモデレーターを務め、パネルディスカッションを行いました。

先生方からは専門の研究内容、研究動向を絡めた Well-being への繋がりについてお話いただきました。様々な分野の領域から、研究や社会実装について最新の知見を得ることができました。また、ひとつのお話から異なる分野の先生のお話に繋がり、その相乗からさらに輪が広がるような場面を目の当たりにすることができたのではないかと感じます。各分野のスペシャリスト同士の貴重なディスカッションとなり、大変盛り上がった内容となりました。





参加者からの感想

「お話を通じて、より良い生活環境づくりで一致していることが理解できた」、「今まで聞いたことのないお話で興味深かった」「自身の研究にも繋がりそうな、興味深い内容であった」、「分野の融合の重要性を改めて感じたとともに、新しいアイデアの種を生み出すには違った視点でのディスカッションが欠かせないと感じた」、「Well-being という一つの課題に向けて、多方向からのお話をお聞かせいただき、興味深かった」、「わかりやすく、ワクワクする内容であり皆さんの色々なあつい想いが伝わった」など多くのご感想をいただきました。

閉会挨拶

立命館大学スポーツ健康科学総合研究所副所長、理工学部 ロボティクス学科 教授、RARA フェロー/岡田志麻先生よりご挨拶を行いました。Well-being の研究とは、研究分野の壁、世代の壁は関係なく全員が総合的に取り組んでいくべき研究分野であり、前人未到の次世代研究に挑戦し続けなければ真のWell-being には到達できないことから、より一層研究を推進していきたい意向をお伝えしました。



スポーツ健康科学総合研究所は、スポーツ・健康・ウェルフェア分野の総合研究拠点として 2022 年 4 月に設立し、所属する 117 名（2023 年 6 月現在）の研究者が、国内外のトップレベルの研究機関と連携して基礎研究から開発・実証、社会実装までのイノベーションサイクルを構築し、一貫通貫で推進しております。

本シンポジウムでは定藤先生、持丸先生に加え、びわこ・くさつキャンパス、衣笠キャンパス、大阪いばらきキャンパスから先生方にお越しいただき、人文科学分野や自然科学分野だけではなく様々な分野の研究者が所属しているところが強みでもあります。今回は設立記念にふさわしい華やかな会となりました。

今後も研究所員とともに培ってきた知見を活かし、あらゆる人の身体的・精神的・社会的健康の実現に主体的に取り組む、多様性と包摂性に優れ、誰もが健康的な生活を送ることのできる社会の実現を目指し、取り組んでまいります。



立命館大学

スポーツ健康科学総合研究所